

洪水

洪水に関する情報入手

- 佐賀地方気象台 <https://www.data.jma.go.jp/saga/>
- 佐賀県「防災・減災さが」 <https://www.pref.saga.lg.jp/bousai/>
- 国土交通省「川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/portal/#80>
- 佐賀県河川情報システム「すい坊くん」 <http://kasen.pref.saga.lg.jp/gispub/>

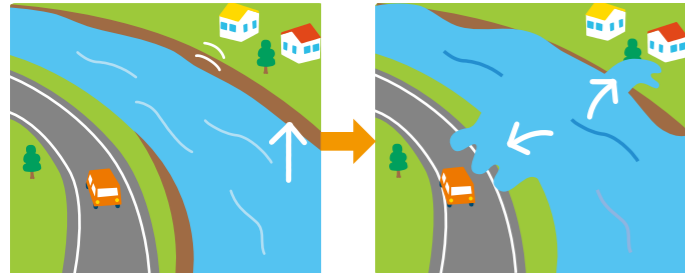
台風や集中豪雨時の注意報や警報は、災害が発生すると予想される場合に発表されます。テレビ・ラジオ・インターネットなどの気象情報に十分注意し、河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想される場合は、万全の対策をとるようにしましょう。

洪水について

氾濫の種類

外水氾濫

本流から水があふれて起きる浸水などの氾濫

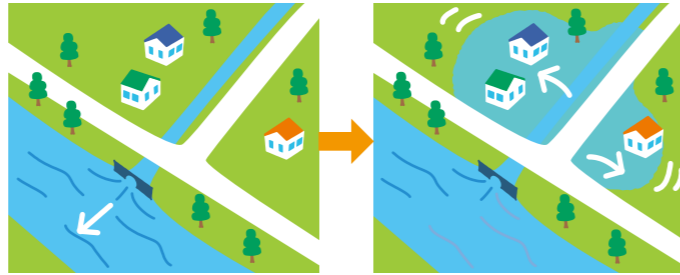


大雨によって川の水が増え、水位が上がり始める。

堤防いっぱいになると、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりして、周辺が浸水する。

内水氾濫

水路などから水があふれて起きる浸水など



平地に降った雨は、側溝や水路などを通して川に排水される。

側溝や水路の排水能力を超える大雨が降ると、側溝や水路からあふれだし、道路や宅地が浸水する。

雨の降り方と強さ

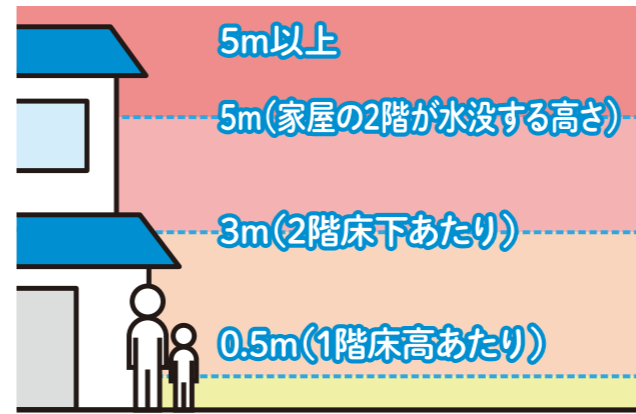
1時間雨量や予報用語は気象庁やニュースなどの気象情報でよく使われています。このイメージを参考に雨の降り方に注意しましょう。

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)の様子	雨の音で話し声がよく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気が付く		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる	

記録的短時間大雨情報(佐賀県の基準:1時間に110mm)

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測、または解析したときに佐賀地方気象台が発表します。この情報が発表されたときは、地域で土砂災害や浸水害、洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。特に土砂災害警戒区域や洪水浸水想定区域にお住まいの方は、避難情報を確認し、速やかに避難してください。

浸水深の目安



3m以上浸水したら...

家屋の1階がすべて水につかってしまい、家財道具などに重大な被害がでます。また、3m以上の浸水になると2階以上も水につかります。

50cm以上浸水したら...

家屋が床上浸水します。また、自動車の走行が不可能となるばかりか歩くことも困難になり、生活に重大な影響がでます。

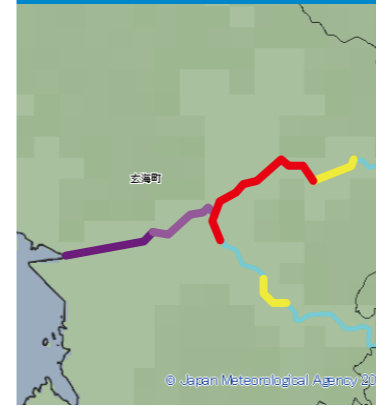
洪水キキクル

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood/>



中小河川の洪水災害発生危険度の高まりを、5段階に色分けして示す情報です。危険度の判定には、3時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

※ここに示す危険度はイメージです。



※気象庁ホームページより



色が持つ意味	住民等の行動の例	避難情報*	相当する警戒レベル
極めて危険	《重大な洪水災害がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。》	—	—
非常に危険	河川水位が一定の水位を超えている場合には速やかに避難する。	避難指示	4相当
警戒	河川水位が一定の水位を超えている場合には避難の準備が整い次第、避難する。高齢者等は速やかに避難する。	高齢者等避難	3相当
注意	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

※内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報

避難のポイント



長靴は水が入って歩きにくく危険です。運動靴をはき、動きやすい格好で避難しましょう。



足元が見えないことが多いので道路の真ん中を長い棒などでつきながら慎重に歩きましょう。



道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(フタがとれている可能性あり)、坂道(水深が浅くても流れが速い)、ため池などが危険です。



鉄道の下など路面が低くなっているところ(アンダーパス)は、水がたまるおそれがあるので、車で入らないようにしましょう。



たれ下がった電線には近づかないようにしましょう。



増水時は橋を渡らないようにしましょう。



事前の処置をして、畑や田んぼの見回りは控えましょう。